

# 千秀だより

横浜市立千秀小学校令和3年(2021)11月30日

## 12月号

URL: [www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/senshu/](http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/senshu/)



### 社会の一員に

校長 冨田 操

昨年度の学校だよりにこのような話を書きました。

「4月当初、あいさつをしなかった新一年生のある子が、次第にあいさつを返すようになり最終的に自分から立派なあいさつをするようになった。」という話です。

今年度も、最初は、こちらからあいさつをしても、全く返すこともしなかった子が、今や自分から「おはようございます。」とあいさつをするようになりました。

これは、お話としては「そんなことか。」という様な小さな話だと思えますが、その子の中で起きている変容を考えると、とても大きな一歩だと思えます。

その子は、家庭という小さな社会から、学校という少し大きな社会へ適応していったのだと言えます。

このように子どもが社会の一員となっていく「社会化」ともいふべき変化を遂げることは自然に起きることではありません。学校という家庭よりも少し緊張する社会に出ていき、一般的に「良きこと」とされていることを、繰り返し学び、身につけていくことで初めて子どもの中に起きていく変容です。このような「社会化」を子どもに少しずつ起こすことに最適な場所が「学校」だと言えるのではないかと、思えます。

一人でいるだけでは起こりえないことが、学校では日々起こります。子どもにとっては試練といえるようなことも毎日起きているはずですが、そこを乗り越えていくことで子どもは、少しずつ一人の自立した人間になっていきます。

また、同時に、一人でいるだけでは起こりえない感動的なことも、学校では日々起こります。多くの人に関わり合うことでしか起きえないこともまた、毎日起きているはずですが、

その日々の営みが、子どもを、自分の力で社会を生きぬいていく大人に近づけていきます。

このあいさつの例は、単なる「一人の子があいさつをできるようになった。」という話ではありますが、実際には、そうした大きな意味をもつものだと思っています。

そして、千秀小学校では、このような子どもの変容を、学校での日々の生活、とりわけ授業の中で意図的に起こしていきたい、と考えています。

日々の授業の中で、自分以外の仲間が自分と同じような意見を持っているということを知り、「ああ、自分と同じように考える人がいるんだ。」という安心感をもつこと。

また、自分と違う意見をもっている人がいることを知り、「なるほど、そんな考え方もあるんだ。」と刺激を受け、学ぶこと。

一年間、およそ1000時間の授業の中で、そうした自分と同じ考えや、自分と違う考えに触れることで、他者がいることが「自分にとって価値あることだ。」と実感し、逆に、自分も他者にとって同じく「価値ある人なのだ。」ということを実感していきます。

そして、集団でいることの良さや価値、素晴らしさを感じ、社会の一員として生きることの良さを理解していくのだと考えています。

このように、子どもが社会につながっていくベースとしての家庭、そして社会そのものである地域の皆様と共に、子どもたちが社会で生き、そして社会を支える人として育っていくことを支援・指導していければ、と思えます。今月もよろしくお願いいたします。